

地域計画づくりの流れ

第1回 課題や思いを共有し整理しよう

2023/9/19 (火) 19:00-21:00

2022年度に実施したみずなみ”未来”カフェ、まちづくり講演会ワークショップでの意見を参考に、個々の関心の高いテーマに分かれて課題の深堀や地域への思いを共有しました。



第2回 地域の将来像を描こう

2023/10/11 (水) 19:00-21:00

参加者それぞれが思い描く「こうあってほしい」10年後の地域の姿を共有し合い、似た思いの人たちで目標を作成しました。



第3回 行動計画、実施体制を作ろう

2023/11/14 (火) 19:00-21:00

目標の実現のために、やりたいことや必要だと思うこと、具体的に取り組むこと、実施体制などを考えました。



陶町地域計画2024

発行年月：令和6年2月

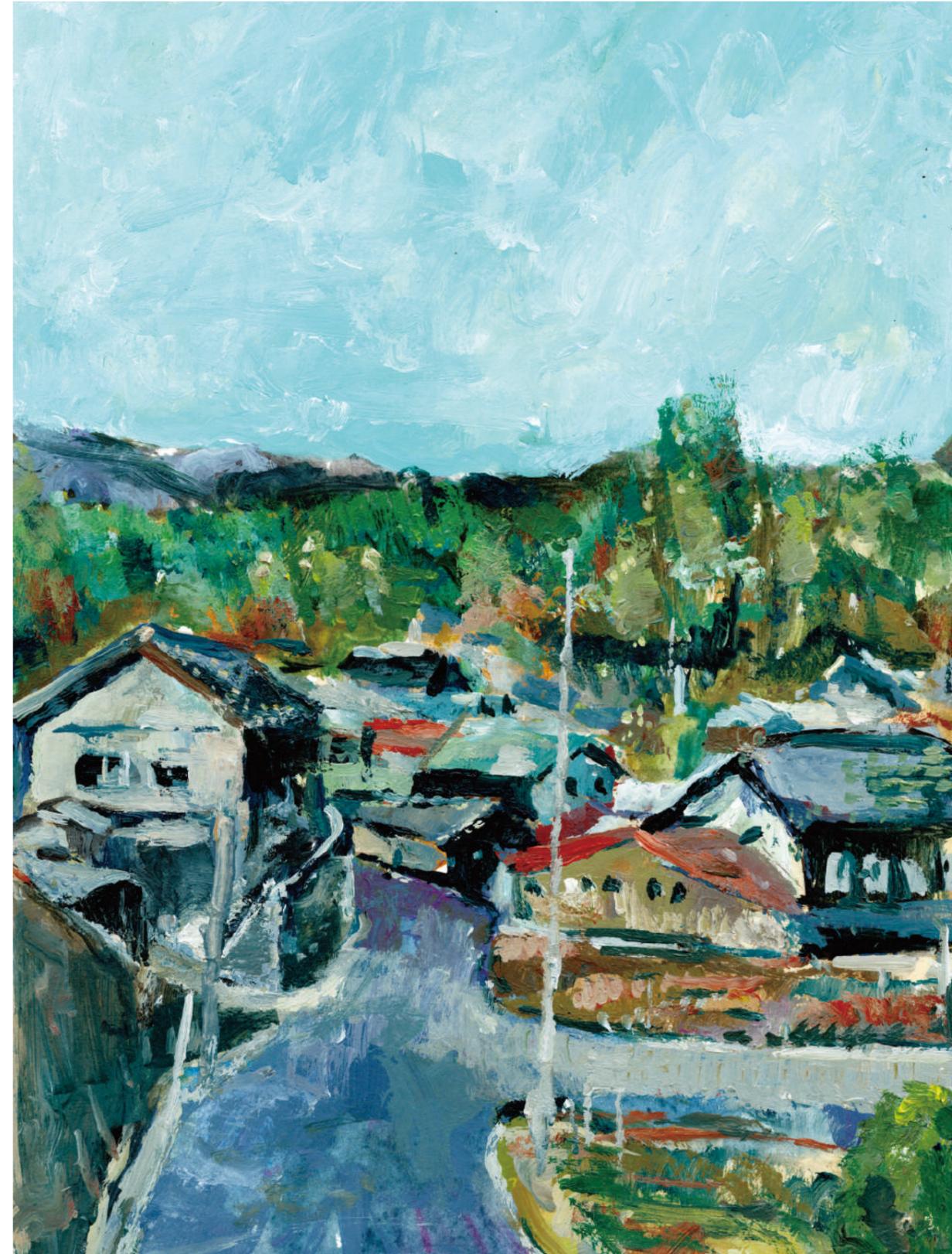
陶町明日に向けて街づくり推進協議会

住所：瑞浪市陶町猿爪405-1

電話：0572-65-2112

岐阜県清流の国ぎふ推進補助金を活用しています

岐阜県瑞浪市 陶町地域計画 2024



はじめに

わたしたちが暮らす地域には、人口減少や少子高齢化によって様々な課題が生じています。

この地域計画は、全3回のワークショップを通じて地域をもっと良くしたいという思いを共有しながら『こんな地域で暮らし続けたい将来像』と『わたしたち自身に取り組むこと』を話し合い行動計画として取りまとめたものです。

計画づくりにあたっては

- 自分たちにとってやる気の出る、意味あるものにする
- 人に押し付けて仕事を増やさない
- やりたい人・必要だと思う人を中心に取り組みを考える

これらを重視して話し合いました。

いつか誰かがやってくれるだろう…という活動でなくまず自分から一歩、動き出せるように似たような思いの住民がチームとなり計画しました。

今後も、多様な世代で意見を交わす機会をもちながら、無理なくひとつひとつ活動を続けより良い地域を共につくっていきましょう。

今、陶町がかかえる課題や困りごと

小学校の存続を！

中学校は既に統合しており、数年後には小学校が複式学級化してしまうことへの危機感が薄いことが課題です。子どもの人数が減ることで親の負担は大きくなっており、学校外での子どもの預かり体制などにも影響があります。子どもたちを笑顔にし、子育てするなら陶で！と思えるような地域での取り組みや支援を考えていきます。

空き家活用、移住促進

空き家や空き工場が増えています。空き家を資源と捉え、町ぐるみで空き家対策に取り組み移住者を呼び込んでいく必要があります。移住体験施設や、周りの町や県への移動の拠点となるような場を整備することも考えられます。陶芸の町としての魅力を活かし、アーティスト・イン・レジデンス(アーティストが地域に一定期間滞在し、地域との交流を図りながら創作活動を行う)を実施するのも良いかもしれません。

意見交流を積極的に進め、多様な意見をもとにした活動を

子育て世代や次代を担う世代と積極的に意見を交わし、地域全体での話し合いを今後も行いながら活動をしていきたいです。地域の風通しを良くすることで、多世代のまちづくりへの参加や若者のUターン、Iターンのきっかけにもなると考えます。まずは自分たちが楽しいと思う活動をやってみたり、年配者は若い人の活動をあたたかく見守り応援できる地域を目指していきます。

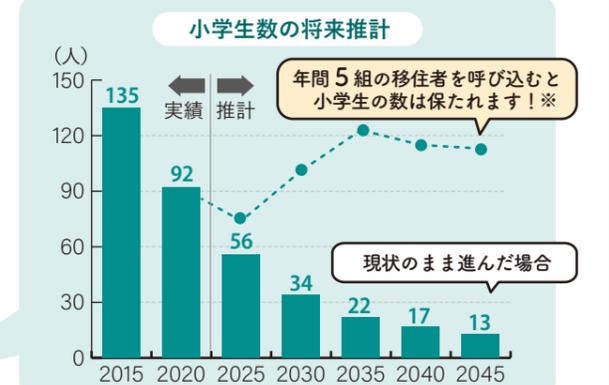
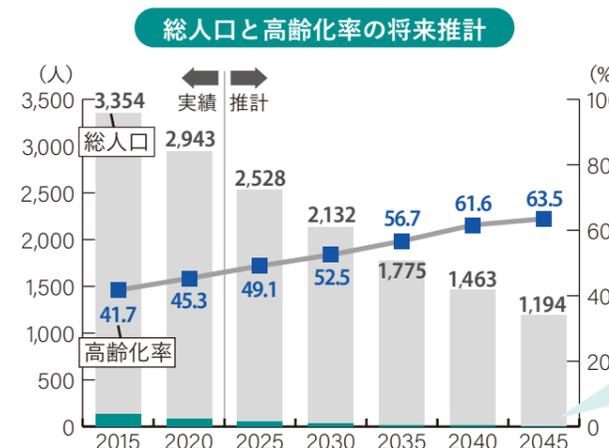
役の多さ、担い手不足

地域に残る人が減り、これまでのように年代別に役を受けるのは困難になっています。また、役員1人1人への負担も年々増えています。町の規模や時代に応じた行事・活動となるよう整理・選別や統合を考え、負担が減るように見直しが必要です。子どものためなら皆が力を発揮できるので、子どもが楽しめる行事に注力したり、子育て世代の取り組みを応援することで担い手の裾野が広がっていくかもしれません。

高齢者の不安解消を

現在の高齢化率は約47%で、今後も高齢・独居世帯は増加していきます。近所との付き合いも希薄になり気軽に話ができる人や場が少ないこと、病院や商店など生活に欠かせない場所が減っており、車の運転ができなくなった場合の生活に大きな不安があります。陶町は坂が多く車が入れない道もあるため、地理的なマイナス面をサポートする対策も求められています。

この先、陶町の人口はどうか？



陶町の将来像

子どもからお年寄りまで安心して楽しく暮らせる 明るく賑やかで活気のあるまち

これからも大切にしたいこと・あったらいいこと・取り組みたいことなど
参加者それぞれが思い描く「こうあってほしい」陶町の姿です。

小学校を存続させる！
子どもを元気に
育てられる環境が整ったまち
いきいきとした子どもの声が響くまち
子どもたちがたくさんいる、
明るい声が響くまち

自然の資源が生かされた
豊かな暮らし
農業が自由に出来るまち
高齢者と若者が協力しあって
大川の農業を続けたい

子育て後も
ママ友パパ友たちと
仲良く楽しく暮らしたい
楽しい行事や
つながりのあるまち

移住者を呼び込む
Iターンしたいと思うまち
人口を増やす

ちょっと不便だけど…
子育てしやすいからと
子育て世代が住んでくれるまち
移住先として選んでもらえる

移住者を呼び込み
少しでも若者を増やし
子どもを増やしたい

地場産業である
陶器・上絵付加工が
発展して欲しい
働き場の確保

困った時助け合えるまち
「せんしょ」な関係が続くまち
みんなで協力し合える体制づくり
近所の困りごとを気軽に相談できる
ご近所さんの助け合い組織

楽しく安心なまち
大家族で暮らせるまち
子どもからお年寄りまでが
笑顔で暮らせるまち
今のよさを保つ

活気あるまち
安心・元気・健康で過ごせる
安全・安心・快適な暮らし
世代関係なく明るい地域

こま犬の里構想の
復活！

伝統文化の
伝承の場を発展

地域防災を
真剣に考える
おせっかい集団を
つくりたい

交通の不便さを感じず
暮らせるまち
高齢者が不安なく住める
お年寄りが負担に思わず
楽しく暮らせる

地域福祉の充実したまち
差し伸べられた手は有り難く受けて
人に手を差し伸べられるまち
自分や、自分の周りの人達が
安心して暮らせる場をつくる

空き家を利用した
集まれる場所づくり
いつでも集まれる
場所をつくる



10年後の目標・行動計画・実施体制

 取り組む際の主体(既存組織・団体・有志のグループなど)  協働・協力してほしい相手

下記は、ワークショップで話し合われた目標と、そのための計画(取り組むこと、取り組めそうなこと、取り組めるといいこと)、実施する際の主体です。今後、具体的な事業計画や協力体制・実行の仕組みを検討し、地域で必要な事業を行います。

目標

陶に移住者を呼び込む!

移住体験のための住む場所整備

計画

・空き家対策チーム「空き家でええんかい(委員会)」の立ち上げ

・空き家の調査、活用

調査 - 空き家の場所、状態、持ち主、持ち主の意向などの調査
- 空き家バンクへの登録、情報発信

活用 - 学生などとりフォーム(楽しく、幅広い年齢と一緒に)
- お試し移住ができる宿泊施設に整備

体制

 空き家でええんかい(委員会)立ち上げ

陶に移住者を呼び込んでいく。チームを立ち上げ、空き家の調査や貸す準備、陶に住んでみたいと思った人が、まず一定期間お試しで住める場所を整備する。(最初から家を購入するのはハードルが高すぎる。)実際に陶に移住した若い人、二拠点生活をする人に意見を聞き、専門家にアドバイスをもらいながら動いていく。

目標

子どもたちの明るい声が響く町

計画

・ゆかいな大人事務局をつくり、寺子屋活動を支援

- 自分ができること、教えられること(勉強以外)がある大人の情報を集める
例)読み聞かせ、百人一首、麻雀、モルックなど

- 寺子屋とは別日もしくは、寺子屋に集まっているが勉強したくない子どもの居場所にする

体制

 寺子屋活動支援Team『ゆかいな大人事務局』
 まちづくり

陶が子育てがしやすい町、子どもたちが楽しく暮らせる町であることを、一番大切にしたい。”ゆかいな大人たち”が協力し合って、今すでに行われている寺子屋を楽しく支えていくことで、もっと子育てしやすい町、安心できる町になっていくのではないかな。町の協力を得て大人の情報を集め、交渉や実行はチームメンバーで行う。

目標

伝統文化・技術の火を消さない

計画

・地場産業の技術伝承

- 転写技術の情報発信、絵付けの様子をSNSで発信
- 観光(体験コンテンツ)プログラム、体験ツアーの計画

・伝統文化 お囃子の伝承

- 陶町内の三地区のお囃子の継続
- コミュニティ・スクールや寺子屋で、伝統文化に触れてもらう機会づくり

体制

 当事者+協力者で実施

地場産業である陶磁器上絵付け加工技術を伝承し、技術者を育てたい。世界トップレベルの曲面転写加工技術を持つ職人が陶にいることをPRし、技術を学びたい人を増やし、呼び込む。お囃子は、披露するお祭りの知名度を上げて観光客を呼び込み、「あのお祭りで発表したい!」と子どもたちが自慢できるようになることで存続確率を上げていく。人と人をつなぐ伝統は、一旦途切れてしまうと再現できなくなるため、非常に危惧している。陶の大切な文化を何とか守り継承したい。空き家を活用して、体験宿泊施設も計画していく。

目標

誰もが陶に住み続けられる交通インフラの整備

計画

・陶の実情に合った整備方法の検討と提案

体制

 地域住民

これからますます高齢化が進むが、陶で免許を返納して暮らし続けるのは難しい。陶は、坂が多く車が入れない道も多いので車椅子になったら大きな不安がある。こうした意見や、陶の実情に合ったコミュニティバス運用の改善要望などを行政に提案する。住民だけでできることは限られるので、行政が実施することに地域で積極的に協力していく。

目標

友だちみたいなまち、また訪れたいまちをつくる

計画

・地域内外に向けた、体験コンテンツの提供

(陶芸、郷土料理、農業、山歩きなど)

体制

 各得意分野でグループメンバーを募ってグループづくり

陶を訪れる人を増やし、「体験」を通じて陶の良さを知ってもらいたい。自分が得意なことやお勧めできることを、自分自身も楽しみながら提案者として体験を行う。背伸びせず、無理なく、小さく始める。情報共有してコーディネートできる人がいると、スムーズに進められるだろう。いずれは、空き家対策でリフォームした場所に宿泊して体験したり、移住にもつながるといい。